

日本の政治経済の課題

慶應義塾大学大学院教授
小林良彰

- *臨時国会開催を巡る複雑な法解釈
- *民主党低迷と無党派の増加
- *かみ合わなかった現実論と憲法論
- *官僚を使えなかった民主党
- *新三本の矢ではなく三つの的
- *高出生率を実現した福井県
- *前途多難な財政の健全化
- *アメリカの独り勝ちが続く
- *日本の活路は海のアジア
- *憲法改正は2段階、3段階に



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

本日は、2年ちよつと間があきましたけれども、小林先生に来ていただきました。

今、国会が開かれませんが、少し政治の状況は穏やかなように見えますが、いろいろ新しい課題も山積しております。経済もあまりパツとしない状況が続いているわけで、スタートした安倍改造内閣の今後、それから日本の政治、国際的な位置づけ、こういったことを今日は小林先生に解き明かしていただこうと思います。それでは小林先生、よろしくお願いいたします。（拍手）

臨時国会開催を巡る複雑な法解釈

小林 ご紹介いただきました小林です。今日

お招きいただきましてありがとうございます。国会は開いているのか、いないのかよくわからない状況です。公式的には開いています。今、閉会中審査といいますが、閉会中開会という、よくわからないことをやっております。

臨時国会ですが、実は私は法学部の人間ですから、少し法律の話になって恐縮ですが、憲法53条では内閣は4分の1以上の国会議員が要求したときは、その召集を決定しなければならずと書いてあります。この解釈が人によって違います。普通に読むと、内閣は4分の1以上の請求があったときに臨時国会をしなければいけないと読むのですが、しかし召集をしなければいけないとは書いていない。召集を決定しなければいけないのだから、召集するか、しないか